



服部文庫
イ 17
2011



○この抄物に左祖有部郭公
の三鏡の内、きいぬきいぬの
大正世に於て、
しんせいの 昭文種譜識

天明五八
未春
留後

○大正世に於て
三鏡陸奥
之季抄書

古事世説の出入り多し
口外より考へ
鏡陰縁 古事記縁起 小倉の代記 禊堂の事 子 布部 禊園 江流物
今事抄 古事記 古事記の事

天明八丁未孟春正月四日

元雅謹識

うりねにほら4...
とらりし...
あるりるるるー 151

○^{たほ}こほ...
たほの...
共塔る...
もね...
あ...
あ...

てあ...
あ...
と...
あ...
あ...

○^ああ...
あ...
あ...
あ...
あ...

まらりいふもてしあうよぬうまんとたふりもてのそてまうけて
己まののどよまううしとあししとたうつりまね
なあこそよつあそよあまこあしゆりしてむらりあに
ぬめのあうりしとまふらふらとまてしとあれまよま
おらまをぬゆしとまののあけよららいつれえたり
うららうりのころあまうつらとたあやうらま
あまよしれえあしあけしとゆまよこまあしあまは
ぬるうしとあしとあまよらまうらあゆくあま

うらまれまよまうらうらとあそそとまなれま
あまゆくゆくゆりやうらまはしとまうらえ
いとあまうらまうらまはしとあまら上

○はむらあてしとまうらうらまのらまよまらあまうら
まうらうらまのらあまのらあまのらあまのらあまのら
とまうらあてしとまのらあまうらまうらまうらま
とまうらあまのらあまのらあまのらあまのらあまのら

あつたよめをたふれおねておきてけしつてぬしとくどし
うらりけしうしとまひぬ中あよらふよめうらつて
はゆとをありしやまよしうけしとけしうらつてして
のしつうのよめありらんこの中おそしのうらつてのま
この花のいろあよありしやまよれたねいうはも
ふもつたよめをたふれおねておきてけしつてぬしとくどし
あつたよめをたふれおねておきてけしつてぬしとくどし
あつたよめをたふれおねておきてけしつてぬしとくどし
あつたよめをたふれおねておきてけしつてぬしとくどし

○和文のうらむじりよめらすおりね宗いぬよめいぬ君之希望
ありうらのゆいね宗及千載の一遇とやある人侍をとりつ
しうらむいぬよめらす とけらぬい

○宗俊大ゆき名経のうらむねてありしやまよめとる
よめをたふれおねておきてけしつてぬしとくどし
くしつてぬしとくどしやまよしうけしとけしうらつてして
うらつてぬしとくどしけしつてぬしとくどし
よめをたふれおねておきてけしつてぬしとくどし

よむと申すねえむしうありてありてありて
このつらうあやうよあてはのびりしうま
るしうしてゐるうらまへよりその度よのしは
まのちかむはばしうもよれもくあねいかりしり
りねいつつまの中はまわたりしうら^{飛定}のち
い中あねん申すのらよいぬのあしうりこり
ありてありけあうまはまわもちりしうり
て申すねえいつくまらうらまへんりりるり

らうらしそあひしよりいゆついでまのちねん大
茶をういやしていしゆかりちうまわいあやせい
ちししていぬのまらうらりのくれうらねい
あやこそしうてれうらまへし
ひあなめやせ

茶

○のちのうぬのまはあしやまのこいぬまのり
このゆりりまらうらまへうらうらあひして
りのうらまへいぬあしうまあてちうらまらうら
ゆりまのこのらまへはあまうらまへ

つらき事しはけとりのりもあつらひし
てーあつらとそとれとつらき事しは
んーあつらとそとれとつらき事しは
つらき事しはけとりのりもあつらひし
てーあつらとそとれとつらき事しは
んーあつらとそとれとつらき事しは
つらき事しはけとりのりもあつらひし
てーあつらとそとれとつらき事しは
んーあつらとそとれとつらき事しは

うへつらとそとれ

○

つらき事しはけとりのりもあつらひし
てーあつらとそとれとつらき事しは
んーあつらとそとれとつらき事しは
つらき事しはけとりのりもあつらひし
てーあつらとそとれとつらき事しは
んーあつらとそとれとつらき事しは
つらき事しはけとりのりもあつらひし
てーあつらとそとれとつらき事しは
んーあつらとそとれとつらき事しは

りまきつゝさちものぢしとさりたるわえのいひし
るらむのまーしをまゆりけしけしけしけしけしけし
よひよをえおさうねふいほくくるものわえとさち
めえしとちえよさりくしてゆとさりりりりりりり
のらよさりくんとしけしけしけしけしけしけしけし
いよこりしとさちわつとせさりくくさりたるとすねら
ひらあつ作とぬさうしてえあつ守さうとさちけし
うりけしけしけしけしけしけしけしけしけしけしけし

ましとさちのぢちとぬぢあつとさちけしけしけしけし
こまゆりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

○のぢちけしけしけしけしけしけしけしけしけしけし
よとけしけしけしけしけしけしけしけしけしけしけし
まあつよのさちけしけしけしけしけしけしけしけし
わいよとさちけしけしけしけしけしけしけしけしけし
よのさちけしけしけしけしけしけしけしけしけしけし
ましけしけしけしけしけしけしけしけしけしけしけし

しぬらとちうわしてえぬししてこりゝぬるこゝもあつり
くもるわつこゝの比こゝうふしをゆししこゝにきりし
るしゆりくうりてゆるぢれたり地こゝにこゝか
くちとどのつこゝもさうりくるしこゝをかくれと
さゝもさうらうるこゝに地こゝもさうりこゝよもあつり
こゝの地こゝのあもさのやこゝしこゝもさうらうるこゝ
えちこゝりこゝりこゝもさうらうるこゝに地こゝにちこゝわしてゆめ
にるりてこゝあつこゝあつてさうらうるしこゝさうらうる

紙
第四

せぬくさうみやてこゝもさうらうるこゝさうらうる
のさうらうるこゝさうらうるこゝさうらうるこゝさうらうる
こゝにえんくの雅あるしりて花こゝもさうらうるこゝ
のらうらうるこゝのこゝさうらうるこゝさうらうるこゝ
さうらうるこゝあつりこゝにちこゝもさうらうるこゝ
つげてさうらうるこゝもさうらうるこゝさうらうるこゝ
ひこゝのこゝさうらうるこゝさうらうるこゝさうらうる
こゝにさうらうるこゝさうらうるこゝさうらうるこゝ

すくれらんともありきまに流るりたるふり
ましきとては 同上

○江佐のくにき袍もつげねととのむらじつとともいりり
てはくりり流るもふあさんきとまやにまねとみま
さりまといりりつよあふさるりといふあありり
こしゆーゆの中らりのこりりあふさるり
のこあふさるりー

○村のゆ時根犯のふゆに光花つゆにゆゆらま

文
十

かりかまよすういかにさいゆのふらともゆりやを
すこあたるふりあふさるりまのそとれとあや
あふねゆゆーとららあふさるりかまゆゆーあり
けしといきねまらりてありかまよとららといとら
にのそとららつるふら中ららるりいあ兼雅村とよ
ままのつらららあふさるりゆにありきゆに
あふさるりあふさるりいあふさるりあふさるり
いあふさるりあふさるりいあふさるりあふさるり

うみをいりうけたりてよもまゝにふりしよめし
うみをいりうけたりてよもまゝにふりしよめし
まづいそいでやあねよりあこるよあこるよ
まづいそいでやあねよりあこるよあこるよ
まづいそいでやあねよりあこるよあこるよ
まづいそいでやあねよりあこるよあこるよ
まづいそいでやあねよりあこるよあこるよ
まづいそいでやあねよりあこるよあこるよ
まづいそいでやあねよりあこるよあこるよ
まづいそいでやあねよりあこるよあこるよ

のちりもつるちやくれにといふよにといふよに
のちりもつるちやくれにといふよにといふよに
のちりもつるちやくれにといふよにといふよに
のちりもつるちやくれにといふよにといふよに
のちりもつるちやくれにといふよにといふよに
のちりもつるちやくれにといふよにといふよに
のちりもつるちやくれにといふよにといふよに
のちりもつるちやくれにといふよにといふよに
のちりもつるちやくれにといふよにといふよに
のちりもつるちやくれにといふよにといふよに

○一多代に心かたしては体はすくねえつら
るらうやねげんとてまゝあらくみらうのるやね

知四

とありけりけくらの多き花よりいまこころあはしくい
つやうし雅なまやしてそらわめりもたかきりるしくあ
とつてむるれいあやしくあはれといふもなうして
花のこころのあはれりの二位の里もわたりたてがうめり
やうにたはもはらうりさめりうしくあはれといふと
う中とくはさかたはもはらうりさめりうしくあはれ
けり たのめは

○いふもはらうりさめりうしくあはれといふと

とつてけりけくらの多き花よりいまこころあはしくい
つやうし雅なまやしてそらわめりもたかきりるしくあ
とつてむるれいあやしくあはれといふもなうして
花のこころのあはれりの二位の里もわたりたてがうめり
やうにたはもはらうりさめりうしくあはれといふと
う中とくはさかたはもはらうりさめりうしくあはれ
けり たのめは

おし
しんせき





